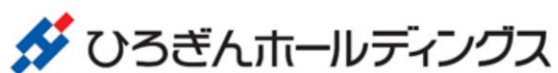


個別テーマIR Day 2

I.取締役会機能

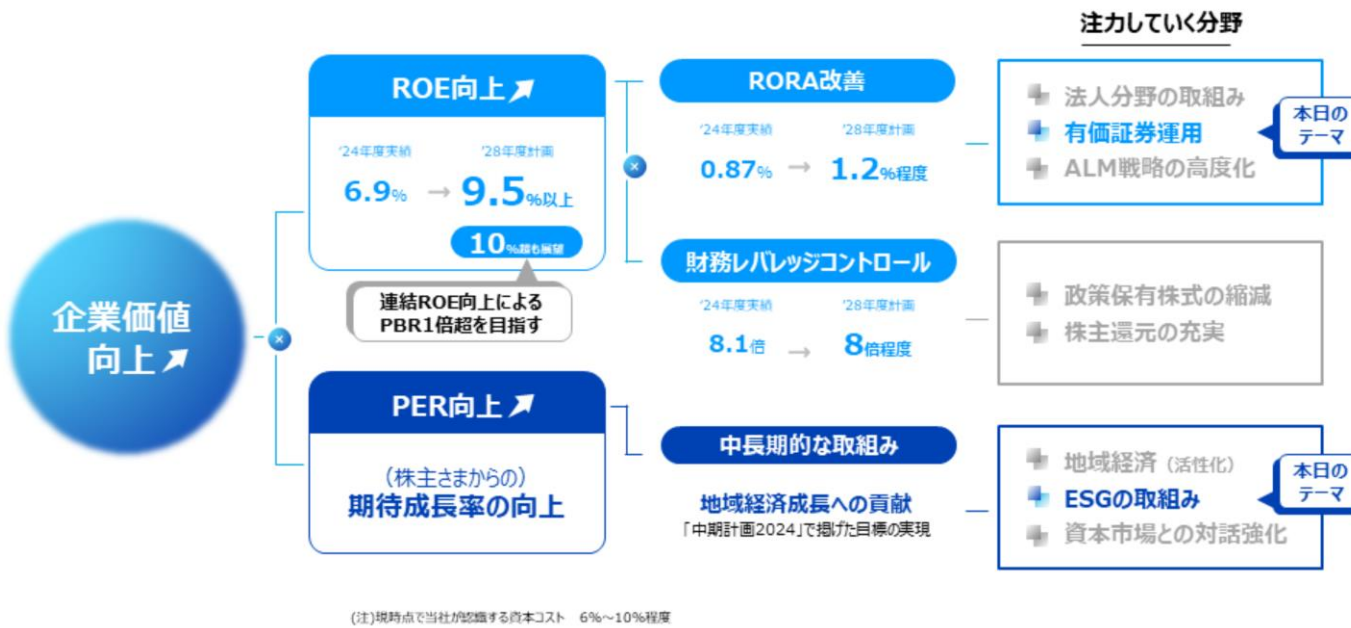
II.有価証券運用

2025年9月24日

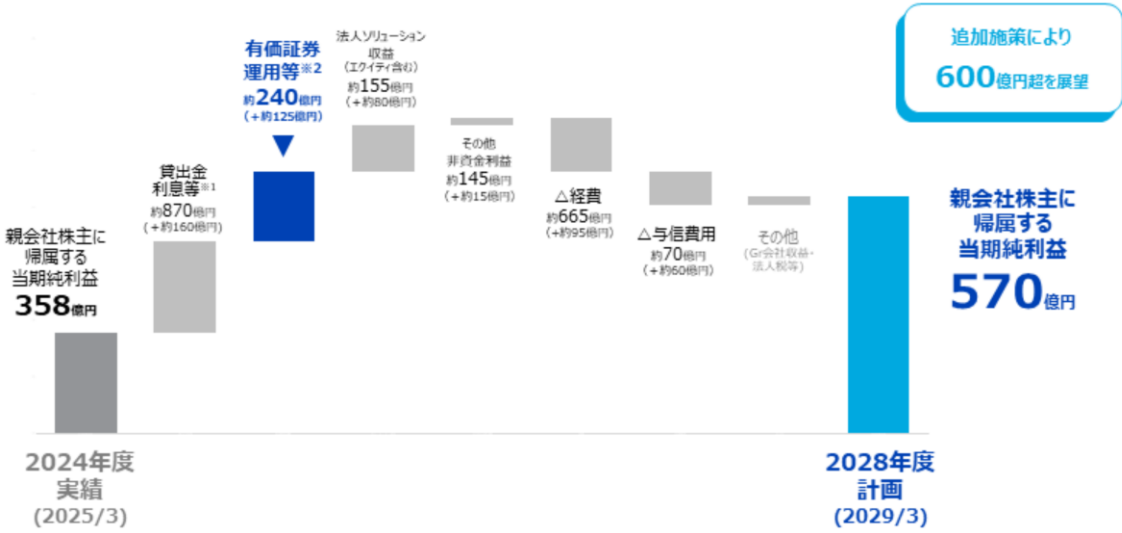


目次

I.取締役会機能	… p.5
II.有価証券運用	… p.10
III.最後に	… p.17



中期計画2024の目指す水準



(※1)外部調達費用(預金含む)控除後、(※2)外部調達費用控除後、売買損益含む

I .取締役会機能

登壇者のご紹介

し ん め ん よ し の り

新免 慶憲 1956年10月26日生



所有する当社の株式数
5,400株

在任5年
(銀行在任期間3年含む)

選任理由等

日本銀行および公益社団法人日本証券アナリスト協会で培われた金融全般における高度な専門性と豊富な実務経験を有しております。2020年6月より株式会社広島銀行取締役(社外)、2023年6月より当社取締役(社外)に就任しており、引き続きその高度な専門性や高い見識を活かし、経営陣から独立した立場で当社取締役会の意思決定機能や監督機能の有効性強化に貢献できる人物と判断し、社外取締役として選任しております。

(注) 2025年9月24日時点

まつむら

松村 はるみ 1954年3月25日生



所有する当社の株式数
1,500株

在任2年
(銀行在任期間1年含む)

選任理由等

企業経営者として豊富な経験とその経験を通して培われた高い見識を有しております。2023年6月より株式会社広島銀行監査役(社外)、2024年6月より当社取締役(社外)に就任しており、引き続きその豊富な経験や高い見識を活かし、経営陣から独立した立場で当社取締役会の意思決定機能や監督機能の有効性強化に貢献できる人物と判断し、社外取締役として選任しております。

略歴、当社における地位(重要な兼職の状況および担当)

- 1976年4月 株式会社西武百貨店(現株式会社セゾン西武)入社
- 2004年6月 株式会社アンリ・シャルパンティエ(現株式会社セゾン)代表取締役
- 2011年7月 株式会社住生活グループ(現株式会社LIXIL) 上席執行役員
株式会社LIXIL 上席執行役員
- 2016年11月 株式会社LIXILグループ(現株式会社LIXIL) 執行役専務
株式会社LIXIL 取締役専務役員
- 2019年7月 株式会社ロッソ・フィールド取締役(社外)
- 2022年6月 株式会社上組取締役(社外)(現任)
- 2023年6月 株式会社広島銀行監査役(社外)
- 2024年6月 当社取締役(社外)(現任)

(重要な兼職の状況)
株式会社上組取締役(社外)

(参考) 当社の取締役会構成および経営陣のスキルマトリックス

取締役会構成



取締役（社内）5名



取締役（社外）2名
（うち女性1名）

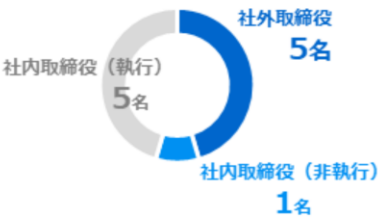


取締役監査等委員（社内）1名



取締役監査等委員（社外）3名
（うち女性1名）

（独立）（独立）（独立）



社外取締役比率
45.5%

非執行取締役比率
54.5%

経営陣のスキルマトリックス

社内取締役

氏名	地位	経験の有する分野			
		経営戦略・サステナビリティ	法務・リスク管理	営業戦略	DX・IT・システム
池田 晃治	代表取締役会長	人	盾	人	人
部谷 俊雄	代表取締役社長	人	盾	人	人
清宗 一男	取締役専務執行役員	人	盾	人	
横見 真一	取締役専務執行役員	人		人	
廣江 裕治	取締役専務執行役員	人		人	人
青木 龍一	取締役（監査等委員）		盾	人	

社外取締役

氏名	地位	特に期待する分野			
		企業経営・サステナビリティ	経済・金融	財務・会計	DX・IT・システム
新免 慶憲	取締役		人		
松村 はるみ	取締役	人			
谷 宏子	取締役（監査等委員）			人	
北村 俊明	取締役（監査等委員）				人
大隈 侑仁	取締役（監査等委員）	人			

社外取締役インタビュー



Q1 中期計画年度の評価と、「活力ある地域」実現への期待と課題を教えてください。

松村 はるみ 社外取締役
2024年度の計画は、過去最高の業績となりました。これは経営体制の向上と人財の育成により、中期計画の目標を達成したことが大きな要因です。また、地域社会との連携も強化されています。

新井 康彦 社外取締役
2024年度の計画は、過去最高の業績となりました。これは経営体制の向上と人財の育成により、中期計画の目標を達成したことが大きな要因です。また、地域社会との連携も強化されています。

「統合報告書2025」にて対談を行っております。
是非、ご覧ください。

(参考) コーポレートガバナンスの取組み

2020年度

- 持株会社体制移行
- 経営理念制定
- コーポレートガバナンス基本方針制定
- 監査等委員会設置会社移行
- 社外取締役3名（女性取締役1名）
- 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針の制定

2021年度

- コーポレートガバナンスコード改訂を踏まえた基本方針改正
- 取締役のスキルマトリックス新規制定
- 取締役会における経営の重要なテーマディスカッション等の実施
- 取締役会運営の高度化（定例的な業務執行報告と重要な議案等の区分に応じた議事時間の配分）

2022年度

- 持株会社の社長と銀行の頭取の兼務解消
- スキル・マトリックスの高度化
- 執行側の事前検討プロセスに関する社外役員への情報共有の充実（経営会議等の資料・議事録の事前共有）
- 女性管理職比率の目標設定

2023年度

- パーパス制定
- 社外取締役4名（女性取締役1名）
- 経営幹部育成プロセスに関する議論強化
- 社外役員との意見交換会の新設
- 女性管理職比率等の目標引き上げ

2024年度

- 社外取締役5名（女性取締役2名）
- 執行側の事前検討プロセスに関する社外役員への説明強化
- 当社初となる女性執行役員の登用
- 金銭による業績連動報酬制度の見直し（新中計に即した金額バーの見直し）

2025年度

- 金銭による業績連動報酬制度の見直し（ROEおよびESG指標の追加等）
- 子会社広島銀行の監査等委員会設置会社への移行

Ⅱ.有価証券運用

株式会社広島銀行

取締役常務執行役員

箱田 浩二

資金証券部長

諸隈 章真

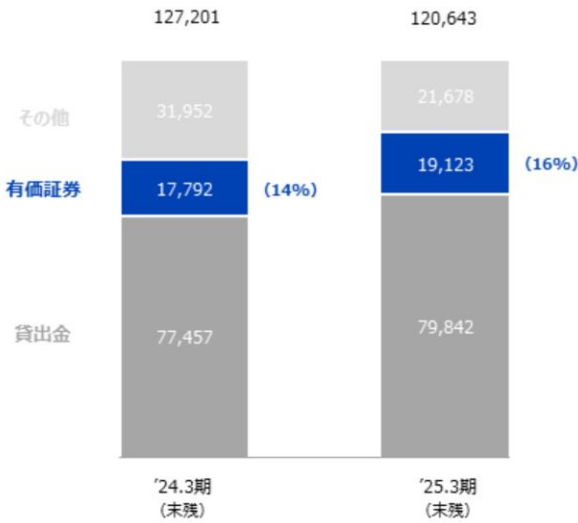
資金証券部 市場企画課長

渡辺 幹洋

バランスシート・損益の状況

(億円)

バランスシート（資産） 広島銀行単体



損益の状況 広島銀行単体

	'24.3期	'25.3期	前年比
コア業務粗利益	920	1,065	145
うち資金利益	741	859	118
うち有価証券利息配当金	213	287	74
円貨	112	143	31
外貨	101	144	43
うち外部運用収益・△外部調達費用等	△ 254	△ 232	22
うち外貨	△ 282	△ 253	29
うち外貨有価証券見合い	△ 137	△ 157	△ 20
コア業務純益	389	490	101
国債等債券関係損益	△ 24	△ 62	△ 38
売却益	58	29	△ 29
売却損	△ 82	△ 89	△ 7
償却	0	△ 2	△ 2
実質業務純益	365	427	62
うち株式等関係損益	82	55	△ 27
売却益	104	57	△ 47
売却損	△ 18	0	18
償却	△ 3	△ 1	2
経常利益	314	477	163
当期純利益	265	329	64

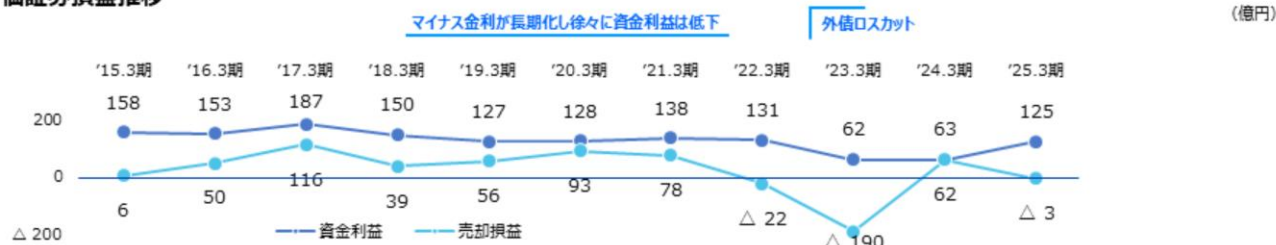
【有価証券】 ※内部管理計数ベース

資金利益	63	125	62
(コア業務純益に対する割合)	(16%)	(26%)	(9%)
売買損益	62	△ 3	△ 65
合計	125	122	△ 3

- 有価証券残高は1兆9,000億円超と、総資産に占める割合は約16%。
- 有価証券運用においては、残高のみならず、預証率も勘案しながら運用を行っている。

ヒストリー

有価証券損益推移



有価証券残高推移 (末残)



HIROGIN HOLDINGS | 個別テーマIR Day 2 12

- 有価証券運用のヒストリーについて。
- 資金利益について、マイナス金利政策導入以前は、相応の収益を計上していたが、マイナス金利が長期化するに従い、徐々に低下。
- また、売却損益については、その時々 of 当社全体の損益の状況に鑑み、機動的な売却を行った結果、大きく増減している。
- 厳しい投資環境が続いたため、投資残高は一時期、約 1 兆円強まで減少。
- 加えて、評価損益は、マイナス金利環境下、低利回りの円債や外債への投資を拡大した結果、金利上昇を受けて損失が拡大した。

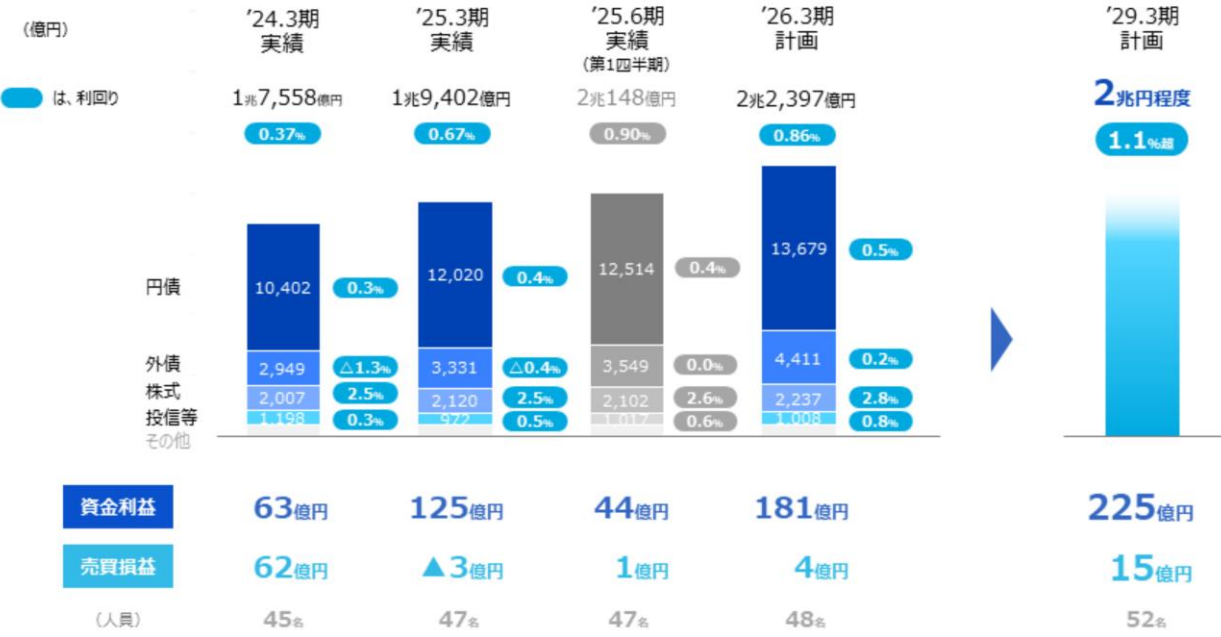
課題の取組状況と今後の方針

課題（2024年9月時点）		取組状況	今後の方針
全体方針	短期目線での運用に終始し、中長期的な観点が欠如	中計最終年度の目標達成に向けた投資を実践	中長期の観点から安定的かつ継続的に高い収益性が確保できるポートフォリオを再構築
ポートフォリオ	円債	□ 金利上昇を想定するなか、デフレーションを短期化しつつ、利回り改善に向けた投資を実施	□ デフレーションを意識しながらラダーポートフォリオの構築を進め、利回りを向上させていく
	外債	□ 逆ザヤの固定債を削減し、調達コストの変動に収益が左右されにくい変動債を拡大	□ 変動債を中心に投資し、安定した収益の獲得を目指す
	株式・投信等	□ 株式資産（個別株・ETF等）の投資目的が曖昧 □ パフォーマンス不芳銘柄が残存	□ リスクアセットを有効活用し、中長期的な視点で超過リターンを狙った投資を行う
運用態勢	スタンス	□ 複数年度（向こう3年）の投資計画を策定し、中長期的な視点で投資を実践	□ 中長期の観点から安定的かつ高い収益性を確保できる運用をメインとしつつ、リスクシナリオを念頭に置いた投資を実践
	体制・人材	□ マーケット人財育成に向けた取組みが不十分 □ 資金証券部内にミドルオフィスが存在	□ 戦略的な人員配置と積極的な外部企業へのトレーニング派遣を継続 * 人員：+7名、育成投資額：1.5億円以上（中計期間中）
	ガバナンス	□ 中長期的な観点での資本配賦が行われていない □ 有価証券投資適宜に係る課題について経営への情報提供が不十分	□ 引続きポートフォリオ再構築に向けた状況等を経営と共有

HIROGIN HOLDINGS | 個別テーマIR Day 2 13

- 前述の状況を踏まえ、2024年9月にこれまでの有価証券運用について総括を実施。
- これまでは、短期目線での運用に終始し、中長期的な観点が欠如していた。
- また、地元貸出業務の信用リスクテイクを優先し、有価証券へのリスクアセット配賦は限定的であった。
- 加えて、リーマンショック以降のリスク管理強化の観点から、流動性・安全性を重視した金利リスク中心の運用となっていた。
- こうした反省を踏まえ、中長期の観点から安定的かつ継続的に高い収益性が確保できるポートフォリオを再構築するべく、方針を策定するとともに、態勢を強化している。

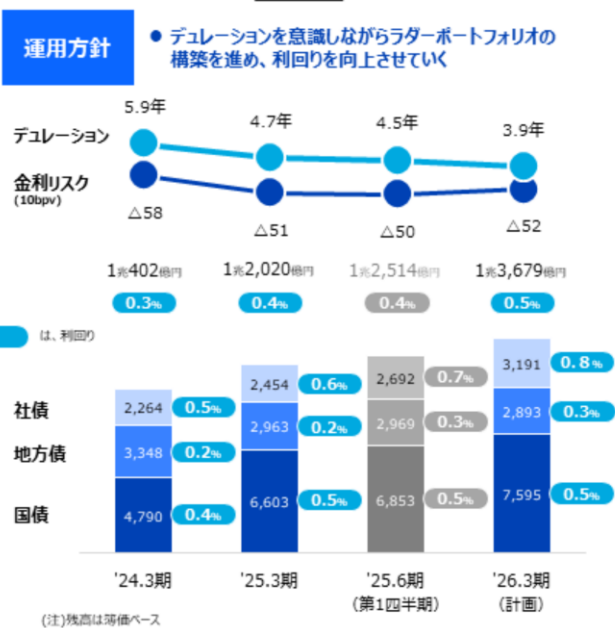
有価証券ポートフォリオ計画



- 有価証券ポートフォリオ計画について。
- 2025年3月期の有価証券残高は1兆9,402億円、ネット利回り0.67%。
- 2029年3月期までに、残高2兆円、ネット利回り1.1%超とし、安定的な資金利益が確保できるポートフォリオを構築していく。

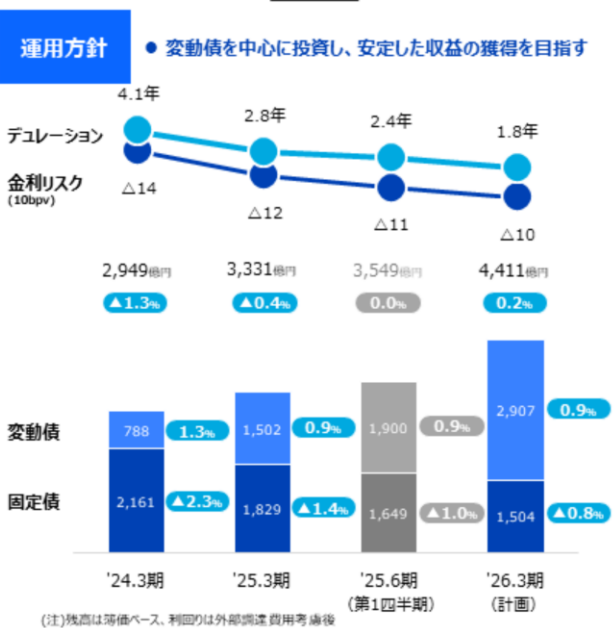
円債・外債の運用方針

円債



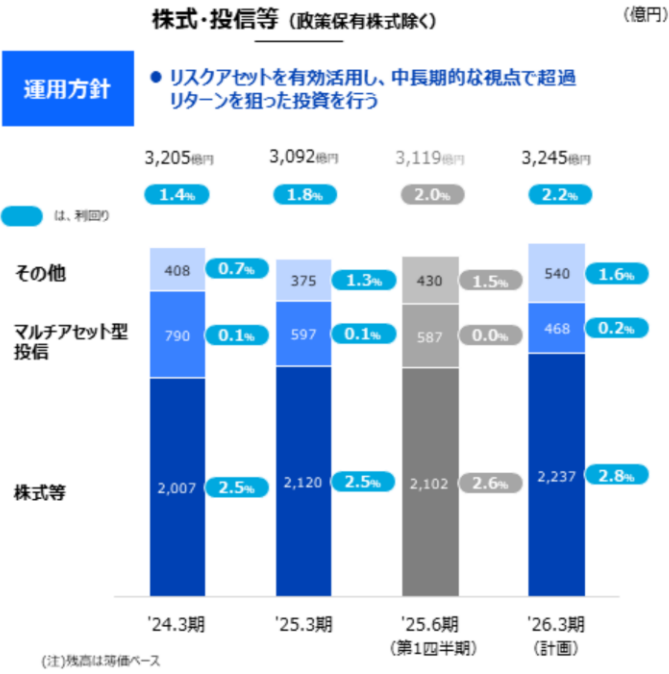
外債

(億円)



- 円債の運用方針について。
- 現在のデュレーションは4.5年程度であり、デュレーションを現状程度とする中、ラダーポートフォリオの構築を進め、利回りを向上させていく。
- 外債の運用方針について。
- 過去、固定債中心の運用であり、米国をはじめとした利上げ局面では、運用金利に対して調達金利が上回る「逆ザヤ」状態となったことを踏まえ、変動債を中心に投資し、安定した収益の獲得を目指していく。

株式・投信等の運用方針



参考

<純投資株式の議決権行使基準>

- ✓ 投資家としての利益を最大化していく観点から、投資先企業の中長期的な企業価値の向上と持続的な成長に資することを目指し、一定の基準を定め、議案ごとに賛否を判断
- ✓ 特に次に掲げる項目については、以下の基準で判断

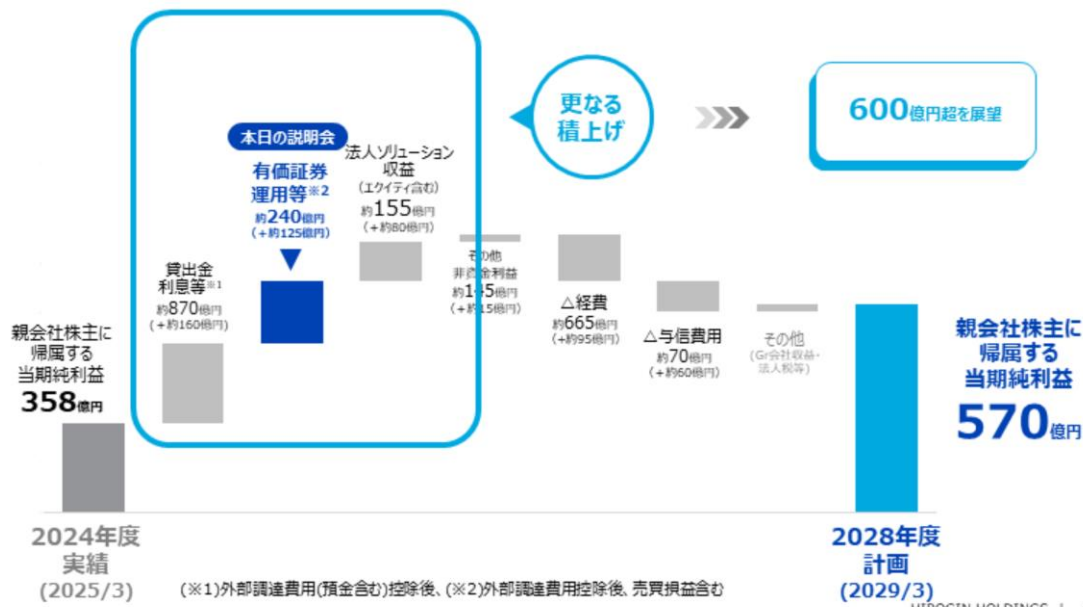
(議案)	(議決権行使基準)
剰余金処分	☐ 配当性向
	☐ ROE
代表取締役選任議案	☐ 社外取締役数・比率、 ☐ 政策保有株式残高の純資産対比比率 ☐ 女性取締役の選任

- 純投資株式、投資信託の運用方針について
- 前述の通り、これまで積極的な信用リスクテイクが出来ておらず、当社グループ全体の損益の状況を踏まえた売却益計上を行ってきた経緯を踏まえ、リスクアセットを有効活用する中、中長期的な視点で超過リターンを狙った投資を行う。
- なお、足元においては、パフォーマンス不芳なマルチアセット型投信等を処分し、株式等の収益性の高い株式資産等のアセットへの入替を進める。

Ⅲ.最後に

中期計画2024の目指す水準

▶ 本説明会においては、有価証券運用等の240億円達成に向けた取組みを説明。



- DAY 1で「法人ソリューション、地域開発ビジネス」、DAY 2で「有価証券運用」の各種施策をご説明させていただき、中計最終年度の親会社株主に帰属する当期純利益570億円に向けたロードマップの一部をお示した。
- 当社グループとしては、600億円超を展望すべく、追加施策を検討しており、方針が固まり次第、公表していく。

本資料には、株式会社ひろぎんホールディングス（以下「当社」という）およびそのグループ会社（以下「当社グループ」という）に関連する予想、見通し、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、統合報告書をご参照ください。なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。また、本資料に記載されている当社ないし当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、当社は、それらの情報を公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性について当社は何らの検証も行っておりません、また、これを保証するものではありません。

株式会社ひろぎんホールディングス 経営企画グループ

電話：082-245-5151(代表)

URL：<https://www.hirogin-hd.co.jp/>

